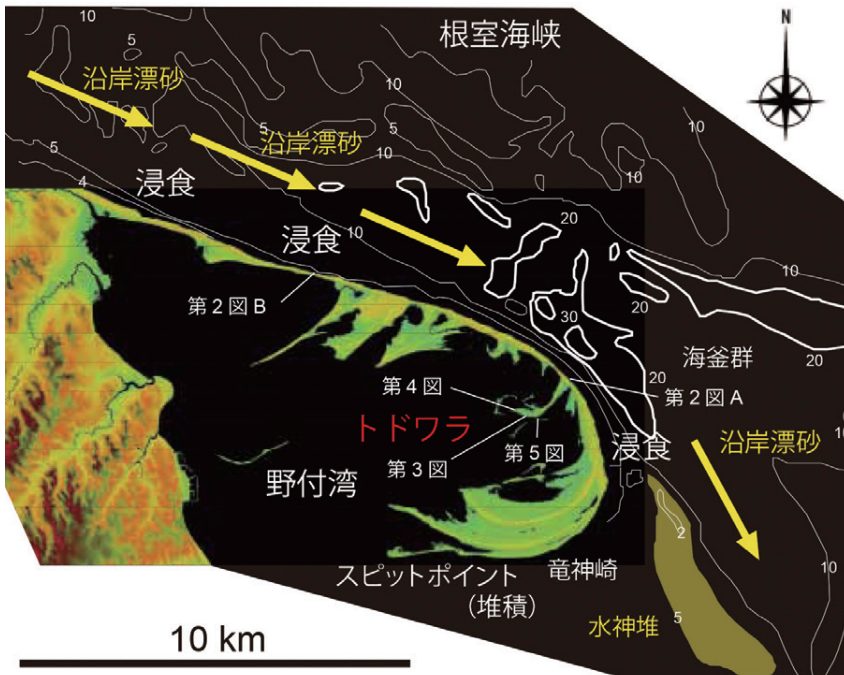


野付半島トドワラ付近で認められる地盤沈下に伴う急激な海進現象

<七山 太¹⁾・石渡一人²⁾>

北海道東部、根室海峡沿岸に位置する野付半島は風光明媚な分岐砂嘴^{さし}であり、道東の代表的な観光地の一つとして知られている。ここでは約1.5 cm/年に達する急激な地盤沈下により、過去90年間に133 cmの海面上昇が生じたとされ、大規模な海岸浸食や湿原環境の干潟化が発生し、地元では深刻な社会問題となっている。



第1図 野付半島の分岐砂嘴と周辺海域の地形概略図。港湾構造物の設置により、北西側の知床半島や標津川からの沿岸漂砂系が遮断され、土砂供給が涸渇し、根室海峡側の沿岸浸食が助長されている。基図には、国土地理院の提供する基盤地図情報(5mメッシュDEM)を使用した。



第2図 根室海峡側の護岸された海岸。海岸浸食対策として、現在も継続されている。A, Bの位置は第1図参照。



第3図 トドワラの木道付近では、満潮時に海水が定期的に流入し、湿原の干潟化が著しく進行している。白く表層を覆っているものは昆布等の海藻類である。写真の位置は第1図参照。

1) 産総研 地質情報研究部門
2) 別海町郷土資料館

NANAYAMA Futoshi and ISHIWATA Kazuto (2014) Rapid transgression due to land subsidence around Todowara, Notsuke peninsula, eastern Hokkaido.



第4図 トドワラの先端部付近. 湿原地下のウォータープールにより, 少なくとも150年前からトドマツとアカエゾマツの森林が存在していたが, 近年の塩水の浸入により, 樹木が立ち枯れている. 写真の位置は第1図参照.



第5図 湿原表層の泥炭層が波蝕され, 干潟環境に散在している. 泥炭は繊維質で定常の波浪では泥炭のブロック化は起こりにくいことから, 冬季の高波浪時に発生しているものと思われる. 写真の位置は第1図参照.